

インフレ目標迫る

日銀会合で
政府側代表

28日の日銀金融政策決定会合に政府側代表として出席した村上誠一郎財務副大臣が、インフレ・ターゲットイング(インフレ目標策)の導入を強く要望したことが分かった。日銀側は、目標となる物価上昇率の設定が難しく、目標達成や効果にも不透明な点が多いなどとして、反論したとい

う。政府代表がインフレ目標策を求めたのは初めてで、次回の決定会合では一段と踏み込んだ議論がされる見込み。

日銀は現在の「量的緩和」を消費者物価指数が前年比ゼロ%以上になるまで継続するとしているが、物価目標とは位置づけていない。日銀が例えは「消費者物価指数の上

昇率が1〜3%」などと目標を設定すると、目標達成が難しい半面、いったんインフレが起ると歯止めがきかないなど大きな副作用を伴うとして難色を示したようだ。

インフレ目標策は、中央銀行がのぞましいインフレ率に目標を設定し、達成に向けた金融政策を約束すること。具体的には、デフレ下の日本では通貨の供給量を大幅に増やしてインフレーションを引き起こし景気拡大を図る。